

『みことば安全地帯』 <Give me power>

聖書箇所： マタイによる福音書7章24節～27節

- 24：だから、わたしのこれらの言葉を聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にくらべることができます。
- 25：雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。
- 26：また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。
- 27：雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。

メッセージ骨子：

<序論> 映画の『フライト』のデンセルワシントン扮するワイトカー機長は、突然の乱気流とメカニカルトラブルを、すばらしいテクニックで切り抜けますが、しかしそれがきっかけで、飲酒操縦が明るみに出、刑務所送りとなってしまいます。人生における突然の嵐、予想外のトラブル。できれば避けたいものですが、イエス様は賢い人が建てた家と、愚かな人が建てた家を比べ、その両方に風は吹き、雨が降って、洪水が押し寄せたと言っています。また「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせて下さる」(マタイ5：45)とあり、これらから人生の嵐は、クリスチャン・ノンクリスチャンによらず、誰にでも襲うものだと分かります。では、分け隔てなく襲ってくるこの「人生の嵐」に対し、私達が準備可能な「具体的対応策」とは何なのでしょう。

<ポイント1> 「み言葉を聞くこと」

中東にはワジ(日本語では涸れ川)というものがあり、そこは日頃は乾いた土地でも、雨が降ると一転して川になってしまいます。ここで議論されているのは、どこに家を建てるかという点です。家の大きさや様式は関係なく、ロケーションが結果を左右するからです。25節の「岩」とは、神のみ言葉。「家」は人生。すなわち、神のみ言葉を聞いてそれを土台にする人生は、何があっても揺るぎません。だから建てる前に、地盤を確認する必要がありますが、あなたのそれは間違いなく岩盤でしょうか?日頃からみ言葉を聞き、たくわえ、岩から離れず、コツコツと家を建て続けることが大切です。

<ポイント2> 「自分を欺かないこと」

せっかくみ言葉を聞いても、聞いて終わるだけの人がいるとすれば、その人は自分を欺き、それを自分に向けないからだと言います。本当の心の叫びは「変えたい、やめたい、方向転換したい。」なのにあえてそれに耳を塞ぎ「私は何も困っていない。好きでやっている。だから放っておいてくれ」と。でもそれは自分を欺いた状態であり、そこからは何も始まりません。自分の心の叫びに耳を傾けてみましょう。真の自分の姿を認めること。勇気は要るけれど、これがすべてのスタートです。「みことばを実行するひとになりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけのものであってはいけません。」(ヤコブ1：22)

<ポイント3> 「聞いたみ言葉を行なうこと」

自分を欺かず自分の姿を認めることができれば、「行なう」は難しくありません。ダビデは姦淫と殺人の罪を示されたとき、一国の王であったにもかかわらず、ぼろぼろの自分を認め、神に立ち返りました。最高権力者であったにもかかわらず、最高権威者の前にひざまずきました。たとえ目の前の人はずぐには受け入れなくとも、主はあなたの悔い改めを、喜んで受け入れてくださるからです。「神へのいけにえは、砕かれたたましい、砕かれた、悔いた心。神よ、あなたは、それをさげすまれません。」(詩篇51：17)

<まとめ> 先程の映画で、デンセルワシントンは、長年飲酒操縦をしてきたことを自ら認め、全てを失います。が、これまでアルコール依存症の父を軽蔑してきた大学生の息子が、後日刑務所の父を訪問します。それは父にインタビューをして『私の出会った最高の人』というエッセイを書くためでした。最愛の息子からの尊敬と、関係の回復。土砂降り「Give me power」の、うめくような祈りによって手にしたものがここにありました。「正義によって得てわずかなものは、不正によって得た多くの収穫に勝る」(箴言16：8) いやそれだけではない。彼こそすんでのところで、濁流を逃れ、岩場に駆け上り、まことの命、永遠の命を勝ち得た、真の勇者、真の勝利者だったのではないのでしょうか。